

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教 師 ノ ー ト

週課	第一年 第八課 第一週
単元	使徒の働き・1
テーマ	イエスの御名によるいやし
タイトル	イエスの御名によって
テキスト	使徒 3:1-10
参照箇所	使徒 3:11-10、5:15-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	使徒 3:6
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 2 巻 1 題 11 課、小下 1 巻 3 題 9 課、幼 1 巻 3 題 9 課
メモ(情報・例話など)	<p>聞き手のこどもたちは、先週のテキストにおいて、「使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた(2:43)」ということを知りました。今週のテキスト(3:1~10)においてルカは、その「不思議なわざとあかしの奇蹟」のうちの1つを取り上げて詳述しています。</p> <p>□導入</p> <p>みんなが持っているものの中で、いちばん価値のあるものは何だろう？ お金かな？ ゲーム機かな？ あなたの命かな？ 今日は、金や銀よりも価値があり、しかも、すご〜いパワーがあるモノを紹介します。じつは、それは、あなたがもうすでに持っているモノです。</p> <p>□ポイント1 弟子たちは、足の不自由な人に目を留めました(1-4節)</p> <p>ペテロとヨハネが、神殿での午後3時の祈りの会に行く途中(使徒たちは、ユダヤ人や神殿を批判してばかりではなく、ユダヤ人のきまりを遵守して生活していました。神殿での祈りの儀式の中で、キリスト信仰に基づく礼拝をしていたと思われます)、男の人に、お金や物を求められました。この人は、生まれつき足が不自由で働けないため、人通りの多い「美しの門」のところで、物乞いをしていたのです。彼は40歳あまり(4:22)でしたが、誰かに手伝ってもらわなければ、その場所に来ることさえできませんでした。ペテロとヨハネは、この人を無視しないで、彼に「私たちを見なさい」と言いました。</p> <p>☆一緒に考えよう</p> <p>汚いかっこうをした、見知らぬ人に、物乞いをされたら、どんな気持ちかな？ あなただったら、教会に行く途中に、物乞いをされたら、どうしますか？</p> <p>☞美しの門:エルサレム神殿の内側の「婦人の庭」に通じる門。その造りが高価で美しいものだったことから、「美しの門」と呼ばれていたと考えられます。</p> <p>□ポイント2 イエスさまの御名によって、男の人の足はいやされました(5-7節)</p> <p>男は何かもらえると期待して、ふたりを見ました。教会にはお金があったでしょうから、ペテロとヨハネにとって、この男にお金をあげるのは容易なことだったはずですが、<u>しかし彼らは、この男が期待しているどんなモノよりも、価値があるものをあげたいと思ったのです。何だと思いませんか？それはイエスの御名です。</u>ペテロは「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言って男を立たせました。イエスさまのお名前は、イエスさまの人格と権威をあらわしています。イエスの御名以外に救いはなく、イエスの御名を呼び求める者は誰でも救われるのです(使徒2:21)。イエスの御名によって、私たちは神の子とされ(ヨハネ1:21)、永遠の命が与えられます(ヨハネ20:31)。イエスの御名を使うと、悪霊さえも服従します(ルカ10:17)。ふたりでも三人でも、イエスの</p>

名において集まる所には、イエスもその中にいてくださり(マタ18:20)、天の父は、イエスの御名によって求めることは何でもしてくださるのです(ヨハネ14:13)。イエスの御名には、そのような祝福と御力が備わっているのです。

📌メッセンジャーは理解しておきましょう

この男が40歳余りで、毎日その場所で物乞いをしていたとすると、彼が以前からイエスを知っていた可能性は高いと考えられます。イエスが宮の中で盲人や足なえを癒された(マタイ21:14)ことも、おそらく知っていたでしょう。それがイエスの御名を信じる信仰の助けになったのでしょう。

□ポイント3 イエスさまの御名は、ほめたたえられました(8-10節)

☆一緒に考えよう

40年間も歩けなかった人が歩けるようになり、物乞いの生活から心も体も解放されたら、どんなに嬉しいでしょうか？あなたなら何をしますか？この男はどうしましたか？(8節)

神殿には、非常にたくさんの方がいました。「中にいた人たちは、神を賛美しながら歩いている男を、じろじろながめました。どうしたことでしょう。いつも「美しの門」で見かける、足の悪いこじきではありませんか。だれもかれもびっくり仰天、たまげ返るばかりです。」(9-10節:リビングバイブル)。

使徒たちは、彼らの力や技術で癒したのではありません。彼らは、イエスの御名とその権威によって祈っただけです。ペテロはイエスの御名を信じていました。また、男の人もそれを信じる信仰をもって立ち上がったからこそ、生ける神の子キリストが、その愛と力をこの男の内に満たしてくださったのです。イエスさまのお名前には、すごい力がありますが、口先だけでイエスの名を唱えればよいものではありません。ペテロは3:16で、「このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです。」と言っています。イエスが地上におられたとき、人々を癒されたように、イエスの御名によって祈る使徒たちを通して、奇蹟のわざが行なわれたのです。

📌御名によって祈っても癒されないときがあるのはどうしてか？と質問することもありますが、奇蹟は神のなさることです。私たちの力でなく、神の権威とあわれみによるのです。だから、すべては理解できないということを伝えましょう。癒しの賜物を与えてくださるのも主です(1コリ12:9)。癒されないのはその人に信仰がないこと、罪があることも、ひとつの原因ですが、それだけではありません。癒されるのにも時があり、癒されないことにも意味があります。私たちにできることは、イエスの御名を信じて祈ることです。

□結論 イエスさまの御名で祈るとき、イエスさまは、弟子(わたし)たちを通して素晴らしいことをしてください 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手にふさわしい適用を投げかけましょう)

例1) 自分の持っているどんなモノよりも、イエスさまのお名前を大事にしましょう！あなたは、イエスさまの御名という素晴らしいものを持っていることに、気が付いていましたか？逆に、お友だちの前で「イエスさま」って言うことを、恥ずかしがることの方が多いのではありませんか？素晴らしい御名を与えてくださっていることを、感謝しましょう。

例2) イエスさまのお名前を通して祈りする時、神さまが必ず聞いて下さっていることを信じよう！わたしたちの祈りのことばにではなく、イエスさまのお名前にチカラがあるのです。「イエスさまのお名前でお祈りします、アーメン」というとき、あなたは信仰を持っていますか？機械的になってはいませんか？イエスさまが素晴らしいことをして下さるといふ信仰(期待)をもって何でもどんどん祈ろう！

例3) イエスさまの御名によってあらわしてくださった奇蹟をみんなで証し合おう！御名によって、歩けなかった人が歩けるようになる(病気が治る)という奇蹟は、今でも世界中で実際に起こっているのです。あなたの身の回りでも、きっと起こるんだよ。

教師ノート

週課 第一年 第八課 第二週

単元 使徒の働き・1

テーマ 御霊に導かれた伝道

タイトル 聖霊にみちびかれて伝道したピリポ

テキスト 使徒 8:26-40

参照箇所 イザヤ 53 章、使徒 8:4-25

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

ローマ 10:15

AG 日曜学校教案参照箇所

幼1巻1題13課、中1巻3題12課

メモ(情報・例話など)

ステパノの殉教をきっかけに福音宣教の舞台は、エルサレム教会から外地へと展開していきます。「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで…(1:8)」というイエスの約束のとおりであり、またペテロが「主の名を呼ぶ者は、みな救われる(2:21)」と言ったとおりです。メッセンジャーは使徒の働き8:4~25を読んで、サマリヤ伝道の展開のようすを知りましょう。聖霊に導かれた弟子(証人)たちによって、福音が世界に広がったということを伝えましょう。このメッセージを通して、子どもたちが、「聖霊に遣わされてみことばを家族やお友だちに伝えたい!」、「聖霊の導きに素直に聞き従いたい!」という決心ができますように。

□導入

興味を起す質問をしましょう

例:いよいよ、イスラエルの国境を越えて、福音が外国に伝えられていきます。聖霊さまはどんな方法で外国にみことばを伝えたのかな? 電話したのかな? それとも手紙?

□ポイント1 ピリポは聖霊に導かれて、エチオピアの宦官に出会いました

聖霊はピリポに「エルサレムからガザに下る道に出なさい」と言われました。そこは荒野でした。ピリポは聖霊の導きに直ちに従いました(26節の「主の使い」と29節の「御霊」は、ほとんど区別する必要はないと考えられています)。そこには、エチオピアの宦官がおり、彼はエルサレムでの礼拝を終えて、馬車で国へ帰るところでした。(エチオピアは、現在はアフリカの国のひとつですが、この時代は現在のスーダンをも含めた広い地域を指しました。)「宦官」とは、宮殿や支配者の後宮(女王や王妃のいる宮)で仕えた男性の家令のことです。だれがわざわざ荒れ果てた土地に行って、外国人に伝道しようとするのでしょうか。ピリポはユダヤ人と深い関係があるサマリヤ人には既に伝道していましたが、このエチオピアの宦官のように「全くの外国人」への伝道は初めてでした。昔のユダヤ人は、自分たちだけが神さまに選ばれていて、外国の人が救われるとは思っていませんでした。しかし、御霊がピリポに「近寄って、あの馬車と一緒に行きなさい」と言われました。ピリポがエチオピアの宦官に伝道したのは、聖霊の導きだったのです(使徒1:8も参照)

☆「行きなさい」と言われて、荒れ果てた砂漠の道を歩くピリポの気持ちを考えてみよう。

📖メッセンジャーの知識

- 1)エチオピアの宦官はユダヤ人の神を礼拝していましたが、律法によってユダヤ教徒となることは許されていませんでした(申命記23:1)。この時代の宦官の多くは去勢されていました。
- 2)ピリポはステパノと同様、エルサレム教会の管理運営のために選ばれた7人の指導者のひとりです(使6:5)。12使徒のピリポではありません。

□ポイント2 ピリポは、聖書のみことばから、宦官にイエスさまのことを伝えました

エチオピアの宦官はイザヤ書のイエスの十字架の受難と救いについての預言の箇所を読んでいました(イザヤ53章)。しかし彼にはその意味がわかりませんでした。そこで彼は、ピリポに「あなたは読んでいることが分かりますか」と話しかけられた時、聖書を教えて欲しいと頼みました。ピリポは、質問された箇所から始めて、彼に聖書の説明をし、主イエスによる救いを伝えました。すごいタイミングです。まさに聖霊の導きで、ピリポは伝道できたのです。また、福音を伝える時に、聖書から適切な聖句を用いて説明できることは、非常に大切なことです。

☆みんなで考えよう。あなたは、お友だちに「イエスさまのことを教えて」と言われたら、どうやって応えますか？どんな暗唱聖句を思い出しますか？

□ポイント3 聖霊さまがピリポを通して働かれ、いよいよ外国人に救いが広がりました

おそらくピリポは、福音を伝える中で、ペテロの説教と同様に「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう(2:38)。」ということをお伝えしたでしょう。そうして道を進んでいくうちに、水のある場所に来ました。エチオピアの宦官は、洗礼を受けたいと申し出ました。それでピリポは彼に洗礼を授けました。神を礼拝しながらも、ユダヤ教徒になれなかった外国人が、真の救いを受けたのです。

ピリポ自身は、水から出たところで、主の霊に連れ去られました。このことから、聖霊がピリポを導いて異邦人に福音を伝えるために用いたということが、ハッキリとわかります。目的が達成されたので、聖霊はピリポを、他の地へ派遣したのです。

📖メッセンジャーの知識

- 1) 詳しい経緯はわかりませんが、その後ピリポはアゾトに現れたと書いてあります。アゾトは、ガザから約30km離れた町です。
- 2) 37節は、有力な写本にないため、後に挿入されたものと考えられているので、欄外に記載されています。

□結論 聖霊さまがピリポを導かれ、福音が外国の人にも伝わっていききました

暗唱聖句を読み上げます

ピリポが伝えなかったら、このひとは信じなかったし、外国に福音は広がりませんでした。しかし聖霊がピリポを遣わさなかったら、ピリポはこの外国人に伝道しなかったでしょう。イエスさまは、あなたにも誰かに福音を伝えて欲しいと願っておられます。聖霊さまがだれに伝えればいいのか、いつ伝えればいいのかを教えてください。

□適用 (聞き手にふさわしい適用を投げかけましょう)

例1) あなたもピリポのように、聖霊さまに導かれて、イエスさまを伝える人として用いられたと思いますか？あなたの周りにいるほとんどの人は、イエスさまを知らないでしょう。いったいどの人から伝えればいいのか、全員に伝えなければいけないのだろうか迷ってしまうかもしれません。その中で、「この人(たち)に伝えなさい！」と聖霊さまに導いてもらいたいと思いませんか？

例2) あなたも、聖霊さまの導きに聞き従っていきましょう。導かれ方は色々で、祈りの中で示される場合もあれば、困っている人の必要を見せてくださる場合もあります。導かれたら、素直に従い、その人に伝えられるチャンスと勇気が与えられるように祈って準備しましょう。また、ピリポのように、聖書をよく学んでおきましょう。聖霊さまが助けてくれるよ。

例3) もしかしたら、もう以前から「この人に伝えなさい」と導かれているのに、御霊の導きを無視してしまっている人はいませんか？面倒くさがったり、否定されるのを嫌がったり、バカにされるのを怖がったりしていたことを悔い改めて、もう一度、新たな決心をしましょう。聖霊さまが必ず助けてくれるよ。

教師ノート

週課	第一年 第八課 第三週
単元	使徒の働き・1
テーマ	全人類の救い
タイトル	すべての人の主
テキスト	使徒 10 章
参照箇所	使徒 11:1-18
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 使徒 10:36	
AG 日曜学校教案参照箇所 小下 1 巻 3 題 12 課、幼 1 巻 1 題 8 課	
メモ(情報・例話など) 「イエスを主と信じるものは、誰でも(人種にかかわらず)救われる」というのは神のみこころです。ペテロとコルネリオにそれがハッキリ分かるように、神ご自身が、幻を通して示してくださいました。ここには、神の綿密な配慮と深い計画が読み取れます。しかし、異邦人を汚れた食物に例えて啓示された点など、こどもたちに分かりにくい点もあります。主題をしっかりと伝えるために、必要なことを簡潔に説明できるよう心がけて準備しましょう。	
□導入 興味を起す質問をしましょう。 例:世界には色々な民族があるのを知っていますか?住んでいる場所、言葉や暮らし方、食べる物など、さまざま違います。イエスさまは、どんな人に福音を伝えたいと願っておられるでしょうか?	
□ポイント1 神さまが御使いをとおして、コルネリオに語られました(1-8節) コルネリオは、カイザリヤという、地中海沿岸の大きな港町に住んでいる、ローマ軍の百人隊長(100人の兵で構成される部隊の隊長)でした。彼はユダヤ人ではありませんでしたが、旧約聖書の神さまを信じる信仰をもっていました。 午後3時の祈りの時間(使徒3:1参照)に、コルネリオがいつものように祈っていると、御使いが彼の名前を呼びました。3~6節の御使いとのやりとりを子どもたちに伝えましょう。単なる夢ではありません、これから起ることは、すべて神が導かれる実際の出来事です。これから神はコルネリオを通して、ひとつの計画を実行されるのですが、ここではまだ、その理由や目的は全く知らされていません。すぐに彼は、敬虔な信仰を持つ兵士とふたりのしもべたちに、すべてのことを説明して、ヨッパに遣わしました。コルネリオは、信仰によって神に忠実に従う人でした。 ☞コルネリオの人格やその信仰の忠実さについては、2節と22節を参照してください。	
☆こどもたちと一緒に考えてみましょう。もし、あなたに突然、御使いがあらわれて、理由も目的もわからない指示を与えられたら、どうしますか?信じることができますか?従うことができると思いますか?	
□ポイント2 神さまはペテロに幻を見せて、教えられました(9-29節) (9-15節) 一方、神はペテロにも語られます。イラストとセリフで9~15節の場面を伝えましょう。 ペテロは保守的なユダヤ人キリスト者でした。彼は、ユダヤ教の祈りの習慣を守っていました。また、彼の異邦人に対する考え方の中には、ユダヤ人的な偏見が残っていました。彼は救われることができるのはユダヤ人だけで、異邦人は汚れていると思っていました。幻の中で見えたのは、旧約聖書の律法に従って	

(ユダヤ人にとって)、食べてはならないものを含むたくさんの動物でした(食物の規定については、レビ記11章参照)。イエスはペテロにも、「すべての食物はきよい」と教えられたはずですが(マルコ7:18-19)、彼はこれまで厳密にユダヤ人の伝統を守ってきたため、汚れたものを食べたことがなかったのでしょう。彼は、正直に「それはできません。」と応答しましたが、「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。」と言う声がありました。

(16-23節)それが3度続いた後、ペテロがまだその幻について思い惑っている時、コルネリオの使者が彼の所へ来ました。イラストとセリフで16~23節の場面を伝えましょう。この時ペテロはまだ、彼らが神の導きによって来たことは気が付いていませんでした。そこで、御霊が、神が彼らを遣わしたということを教え、ためらわず彼らと一緒にに行くように促してくださいました。ペテロもそのことばに従いました。

(24-29節)イラストとセリフで24~29節の場面を伝えましょう。コルネリオは、神が彼に語られたことの目的が明らかになることを、期待して待っていたでしょう。一方ペテロにとっては、異邦人の家に入って語り合うということは、ありえないことでした。しかし、このとき彼には、先の食べ物の幻の意味がわかっていたのです。彼は「どんな人のことでも」きよくないと言ってはならないと神が示してくださいましたと言っています。

☞コルネリオが「友人たちを呼び集め」てペテロを待っていた態度に、彼の敬虔をみることができます。神さまが何かすばらしいことをしてくださいに違いないと期待していたのでしょう。

☞一方ペテロも「私もひとりの人間です」と、謙遜な態度をとっています。ペテロも私たちも、神のあわれみによって生かされている者です。どんなに用いられても、このような態度を忘れてはいけません。

□ポイント3 ペテロは神様の救いの計画がはっきりわかりました(30-48節)

コルネリオが自分の見た幻について語りました。ペテロは、それを聞いて、一連の出来事とおして、神が何を語っておられるか、さらに明確に理解する事ができました。ペテロは、「神はかたよったことをなさらず…イエス・キリストはすべての人の主です」ということをまず語りました。それから、福音を解き明かしました。ペテロが語っているうちに、異邦人にも聖霊の賜物が注がれ、洗礼を受けました。他のユダヤ人クリスチャンはそのことに驚きましたが、ペテロはもはや驚きませんでした。これが神のみこころであることを確信していたからです。

□結論 神さまは、イエスさまを信じる人は世界中のだれでも救われるということを、幻を通してペテロに教えて下さいました 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)イエスさまは、すべての人の主です！そして世界中のみんなを愛してくださいました。まだイエスさまのことを聞いたことがないお友だちが、世界にたくさんいます。そのすべての人たちのために祈ろう！あなたは、その人たちに福音を届ける人になりたいですか？世界中の困っている人にイエスさまの愛を伝える人になりたいですか？

例2)あなたは、「学校のお友だちが、イエスさまの十字架と復活の話を信じるはずがない」、「言ったってどうせ分からないよ、バカにされるだけだ」、なんて思い込んでいませんか？ペテロも、そのような固まった考えを持っていましたが、幻を見て変えられました。自分の思い込みで、神さまのなさること小さくしてしまっただけです。あなたは、あなたの家族も、お友だちも、どんな人でも、みんな救われることを信じていますか？イエスさまは、あなたがキライな人も、救いたいと思っているのです。あなたも「イエスさまの十字架は、みんなのため」ということが、しっかり分かるようにお祈りしよう。特に、「あいつはキライ」というような偏った考えを捨てましょう。

例3)(まだ信じていないお友だちへ)イエスさまの十字架は、みんなのためです。みんなイエスさまが必要なのです。あなたにも十字架の愛が必ずわかります。信じて求め続けましょう。

教師ノート

週課	第一年 第八課 第四週
単元	使徒の働き・1
テーマ	サウロの回心
タイトル	サウロの回心
テキスト	使徒 9:1-22
参照箇所	使徒 7:54-8:4、13:9、22:3-16、26:9-18、I コリ 15:9-10、ガラ 1:11-24、I テモ 1:13-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	II コリント 5:17
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 3 巻 1 題 4 課、小下 2 巻 4 題 2 課、中 3 巻 1 題 2 課
メモ(情報・例話など)	<p>今回はサウロ(パウロ)の回心のテキストです。パウロは、世界に福音を伝えるために用いられた最も偉大な使徒と言われます。そのパウロは、初めはキリストを迫害するものでしたが、イエスによって変えられたという事実を伝えます。劇的なインパクトのあるシーンです。神はどんな罪人をも愛して救ってくださり、ご自身の栄光のために用いてくださるというメッセージが、子どもたちの心に届くように、祈って準備しましょう。</p> <p>☞ 数人の CS スタッフの方でスキットをしてみたいかでしょうか？本格的な演技をしなくても、ストーリーをそのまま演じるだけで効果的です。その他、紙芝居なども、有効活用しましょう。</p> <p>☞ メッセンジャーは、22章と26章も必ず読んで、テキストの理解を深めましょう。さらに(I コリント 15:9-10、ガラテヤ 1:11-24、I テモテ 1:13-16)も参照しましょう。</p> <p>□ 導入</p> <p>あなたは、お友だちのことを「あんな悪いヤツは絶対に救われぬ」とか「あいつは意地悪だから教会にさそわない」と思ってしまったことはありませんか？神さまは、どんな人を愛してくださるのでしょうか？頭の良い人でしょうか？優しい人でしょうか？いじめっ子でしょうか？とんでもない悪者はどうでしょうか？</p> <p>☞ 必要に応じて、導入部で、後のパウロがいかに用いられたかということ、簡潔に伝えましょう。①危険を顧みず船で海外に出て行って宣教し、各地に教会を建てた。②世界の中心であったローマでも伝道するなど、福音を世界中に広げるために最も貢献した。③新約聖書の大半は、パウロが書いた手紙で構成されている。</p> <p>□ポイント1 サウロは、イエスさまを信じる人を激しく迫害する者でした(1-2節)</p> <p>サウロはステパノ殺害について賛成し、荷物の番の役をしていました。それから起った激しい迫害の先頭に立ち、教会を荒らし、家々に入って男も女も引きずり出し、次々に牢に入れました(7:58-8:3)。さらに殺意に燃え、イエスを信じる人を見つけたらどんどん捕まえてもよろしいという許可を、大祭司から取り付けました(26:11参照)。(サウロが「同年輩の多くの者たちに比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖からの伝承に人一倍熱心」であった(ガラテヤ 1:14)ゆえに、キリスト教に激しい反感もちました。彼にとって、イエスが神の子キリストであると主張することは、神への決定的な冒瀆と思われました。)</p> <p>☞ パウロのユダヤ教的背景について、詳しい解説は省略してもかまいません。特に低学年には「サウロは、キリスト教徒を激しく迫害していた」という事実を伝えるだけで充分でしょう。</p> <p>☞ サウロ→パウロに名前の記載が変わるのは13:9から。「サウロ」はギリシャ語名パウロのユダヤ形。</p>

□ポイント2 イエスさまが、サウロに直接語りかけられました(3-19節)

(ダマスコに向かった目的は、パレスチナの外に逃げたキリスト者を追跡して捕らえるためでした。)その途上でイエスはサウロに声をかけられました。(イラストとセリフで3~19節の場面を子どもたちに伝えましょう)迫害運動の首謀者サウロにとって、復活の主に出会ったことはどれほどの衝撃だったでしょうか。圧倒され、困惑し、今までしてきたことを強烈に悔い、呆然としたでしょう。アナニヤはダマスコに住むイエスの弟子で、「律法を重んじる敬虔な人で、そこに住むユダヤ人全体の間で評判の良い人(22:12)」でした。彼にとって、あのサウロが回心するとは信じ難いことでした。しかし主は、激しくキリストを迫害したサウロを、ご自身の栄光のため、特に異邦人伝道のために選んで用いると宣言されました。なんとという大きな愛でしょうか！神の祝福の計画は、人知では計り知れません。アナニヤが祈ると、サウロの目は見えるようになり、彼はバプテスマをうけました。

☞「わたしはあなたが迫害しているイエスである」ということばから、(1)これを主イエスご自身が語っておられること、(2)クリスチャンを迫害すること＝イエス自身への迫害を意味することがわかります。

☆「3日の間、サウロはどんなことを考えて過ごしただろう?」、「どうしてイエスはその場ですぐにサウロを悔い改めに導かなかつたのだろう?」など子どもたちと一緒に考えると楽しいでしょう。

□ポイント3 サウロは新しく変えられて、イエスさまのことを伝える人になりました(20-22節)

サウロは新しく生まれ変わりました。彼はすぐに「イエスさまは神の子です」と伝え始めました。サウロが以前と全く変わったのを見て、人々は驚き、神のすばらしさがほめたたえられました。サウロ(パウロ)は、イエスの言われたとおり、福音を異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、神の選びの器として用いられました。彼は言いました。「私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」(1コリント15:9-10)。

□結論 神さまは過去にどんなひどいことをした人も救ってくださり、イエスさまを証しする者として用いてくださいます

神さまは、どんなに悪い人でも悔い改めさせてくださいます。はじめから良い事のできる人だけを救うのではありません。罪人を救って、新しく変え、用いてくださるのです。 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)まず、あなた自身が救われて、新しくされたことを感謝しましょう。あなたが良い子だから救われたのではありません。サウロのような迫害活動はしなかったかもしれませんが、神さまに背を向けて生きてきました。それでもイエスさまは救ってくださり、新しくつくり変え、福音を伝えるために用いてくださることを感謝しましょう。

例2)あなたは「あんな悪いヤツは絶対に救われない」とか「あいつは意地悪だから教会にさそわない」と思ったことがあるかもしれません。しかし、イエスさまはそんな人をも愛しておられます。イエスさまはその人を、命と引き換えに買い取られたのです。イエスさまは、どんな人も救ってくださり、新しくつくりかえてくださることを信じよう。

例3)まだイエスさまを信じていないお友だちは、イエスさまがサウロに語りかけて下さったのと同じように、あなたにも必ずイエスさまとの特別な出会いがあることを信じましょう。今までの罪は、すべて赦してください、神さまのすばらしさを表すように、新しく変えてくださいます。

例4)クリスチャンホームのお友だちは、サウロのように神さまに敵対したことがないかもしれません。そのように守って下さったことを感謝しよう。あなたも、(両親がクリスチャンだったからというだけでなく)サウロのように、個人的にイエスさまと出会いたいと思いませんか?そして、新しく生まれ変わる体験をしたいと思いませんか?あなたが求めれば、必ずそれは体験できます。

教師ノート

週課	第一年 第八課 第五週
単元	使徒の働き・1
テーマ	海外宣教
タイトル	キプロス島での伝道～第1回伝道旅行
テキスト	使徒 13:1-12
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) マルコ 16:15
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 4 題 3 課、小上 3 巻 1 題 6 課、中 3 巻 1 題 4 課
メモ(情報・例話など)	<p>5回にわたってパウロの伝道旅行をたどります。そして最後にローマへたどり着くところも扱います。伝道旅行地図を子どもたちと一緒に作成したり、掲示すると良いでしょう。第1回伝道旅行は1040キロ、第2回は1460キロ、第3回は1600キロの行程だと言われています(新聖書注解)。今教会のある街から、どのあたりまで行って帰ってきたらそれくらいの道のりになるのか(cf.東京-大阪間は、約500キロ)、また車も電車も飛行機もない時代の旅であることなども伝えながら、普通の観光旅行とは違うことを伝えましょう。Iコリント11:23-27に、どれだけ困難な旅であったかが述懐されています。それでもキリストを宣べ伝えずにはおれない思いが、初代教会とパウロなどの宣教者にあったことを土台としながら語りましょう。</p>
□導入	<p>「イエスさまはなに人か知っていますか?」(先生は小さい時、日本人だと思っていたよ・笑)遠いイスラエルの国に生まれたイエスさまのことを、私たちがココ(日本)で知っているのは、ココまで伝えてくれた人がいるからです。教会は聖霊によって誕生してから、外国の人々にもイエスさまを宣べ伝え続けています。</p>
□ポイント1 教会は、バルナバとサウロを海外伝道につかわしました(1-3)	<p>アンテオケ教会には、ユダヤ人だけではなく、クレネ人やギリシア人、キプロス人など、多くの国の人々がいました(11:19-21 参照)。みんなが教会で礼拝をしていると、聖霊なる神さまが「バルナバとサウロを神さまの働きにつかわすように」と言われたのです。それは海外(外国)に行き、イエスさまのことを宣べ伝えるという働きのことでした。そこで教会では、断食と祈りをして、バルナバとサウロに手を置いてお祈りしてから送り出しました。</p>
☆海外伝道は、サウロが「外国へ行ってみたいなあ」と思って始まったものではありませんでした。聖霊の導きの中で、アンテオケ教会のみんなが中心となって、バルナバやサウロのために断食して祈って、彼らを外国に送り出したのです。聖霊に満たされた人々のいる教会は、聖霊なる神さまの思いが良く分かるし、使徒1:8のイエスさまの約束の言葉が成就していきます。	
□ポイント2 バルナバとサウロは、キプロス島を巡回して神のことばを伝えました(4-7)	<p>バルナバとサウロは、聖霊につかわされてキプロス島へ向かいました。(キプロス島というのは、地中海に浮かぶとっても美しい島で、バルナバはこの島の出身だったそうです。)この伝道旅行には、マルコと呼ばれているヨハネ(12 弟子のヨハネじゃないよ)も助手として一緒にいきました。この島には人々を惑わす魔術師もいましたが、神のことばを聞きたいと思っている総督もいました。</p>

☆神のことばを語ろうとする時、反対するような人が出てくるかもしれません。しかし神さまはちゃんと「神のことばを聞きたい」と思っている人も備えて下さっています。

□ポイント3 神さまのことばと不思議なわざで、イエスさまを信じる人がおこりました(8-12)

魔術師エルマという人が、2人に反対して伝道の邪魔をしてきたのです。神のことばを聞きたいと思っていた総督を信仰の道から遠ざけようとしてました。しかしサウロ(パウロ)が聖霊に満たされて語ると、エルマの目が見えなくなりました。この出来事を見た総督は、主の教えに驚いて、イエスさまを信じるようになりました！

📖 サウロはユダヤ名で、パウロはローマ市民名。使徒の働き13:9以降は、パウロ名で記されています。

☆神のことばには力があって、その力は魔術の力を圧倒する力です。そして神のことば(主の教え)を信じる人々が起こされていきます。

□結論 聖霊によって誕生した教会は、自分の教会だけではなく、外国でもイエスさまを信じる人がおこされるように祈り、聖霊によって人をつかわします。 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1) 日本からつかわされている海外宣教師のために祈ろう。

- ・働きを助ける人と神さまのことばを聞きたいと思う人が与えられるように祈ろう。
- ・反対者やサタンの働きがあっても、聖霊のわざによってむしろイエスさまを信じるきっかけとなるように祈ろう。

📖 アッセンブリーからつかわされている宣教師を具体的に紹介し、HP などから祈禱課題をあげて一緒に祈ってもよいでしょう。宣教師が巡回に来られる時があったら、小学校高学年なら一般の礼拝などに参加することを勧めてみてはいかがでしょうか。あるいは牧師と相談して、宣教師に子どもたちに外国での宣教の様子をお話ししてもらい機会を作ってもらってもよいでしょう。

2) 日本にいる外国人のために祈ろう。(アンテオケ教会にもたくさんの外国人がいました)

- ・イエスさまを信じることができるよう。
- ・私たちに何か手助けできることがあったらさせてください。